

石井ゼミ・フィールドワークの成果報告

- **FW実施日**: 2021年12月1日(水) 13:00~17:00
- **行程・巡検ルート**: 天王寺テンシバ⇒通天閣界限⇒新世界市場商店街⇒JR新今宮駅界限
- **参加者**: 石井ゼミ全員参加
- **課題**: シャッター通り化した新世界市場商店街の活性化・再生



目次

- 新世界市場商店街の現状
- 商店街の風景
- コロナによる影響
- 賑わう難波と新世界周辺の違い
- 復興には
- 最後に



撮影 12月7日 17時13分



撮影 12月7日 17時53分

新世界市場商店街の現状

- コロナウイルスの影響で観光客が大幅に減少
- 人通りが少なく、活気なし
- 若者はほとんどいない

星野リゾートが建設中

JR・南海電鉄新今宮駅の北側に建設中。

客室440室、芝生広場と日帰り利用okカフェも完備。

コロナ終息後はインバウンドにより、盛り上がること間違いなし。



撮影 11月3日 15時46分

2022年4月22日にオープン!

いけたらみんなで行こう!



新世界市場商店街を復興させるために

①年代問わず観光客に訪れてもらう

②食べ歩きを増やす



①年代問わず来てもらう

- 家族向け

→ 観光スポットを巡るスタンプラリー

- 若者向け

→ SNS映えスポット

古着屋やスイーツなどのショップ



②食べ歩きを増やす

新世界は「飲み屋」「夜の街」の印象が強い？

店の雰囲気から初めて訪れた人は

入りにくいと感じる人も。

→ 食べ歩きができる店を増やし、

気軽に大阪グルメを楽しめるようにする。





石井ゼミスポーツ交流会



先日石井ゼミの海外フィールドワーク実習でスポーツ大会が行われました。本来石井ゼミではタイによる海外フィールドワーク実習が行われる予定でしたが新型コロナウイルスより中止されたため、少しでもゼミのメンバーと仲を深めるためにスポーツ大会が実施されました。僕自体もまだまだ石井ゼミには馴染めずスポーツ大会で馴染もうと思いましたが、普段は教室で座り授業を受けている雰囲気しか知らない友達しかいないのでスポーツ大会をして普段とか違う友達の姿を見る事ができとても楽しく普段とか違うコミュニケーションの取り方をしてとても仲が深まった気がしました。スポーツ大会ではバスケットボールをして、スポーツで1番大切なことは繋ぐ事だと思いました。パスを繋ぎゴールを入れる事は仲間の絆を繋ぐ1番の近道だと言う事がわかりました。コロナで海外に行かなくても石井ゼミではいろんな楽しみ方をできる事がわかりました。(清村光希)

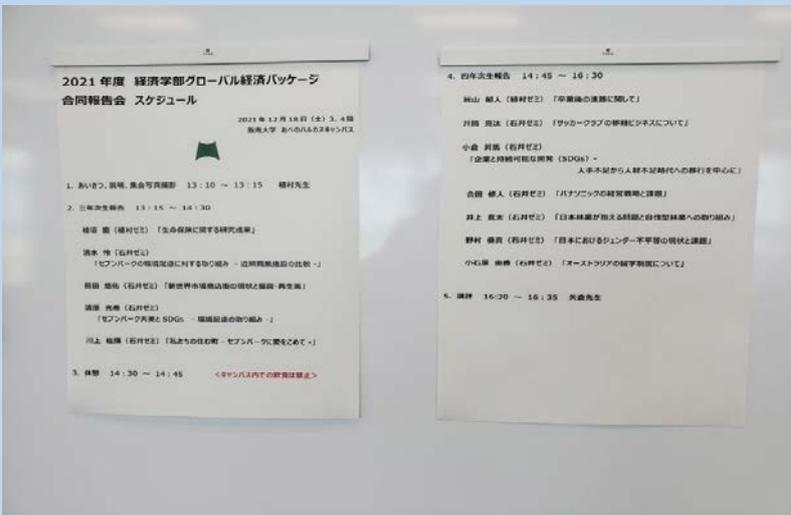
石井ゼミ、1年間の勉学成果を発表！

経済学部グローバル・パッケージコース主催のプレゼン大会

石井ゼミの報告者の名簿とテーマ(2021・12・18、於あべのハルカスキャンパス)

学年	氏名	テーマ
3年生	山名優芽 浦山智樹 清水 怜 ◎新谷浩太 松田夕佳	セブンパークの環境配慮に対する取り組みー近隣商業施設との比較ー
4年生	井筒亮汰	サッカークラブの移籍ビジネスについて
3年生	上月清加 前田悠佑 梅本理奈 小畑拓巳 ◎大東圭吾	新世界市場商店街の現状と振興・再生策
4年生	小倉昇馬	企業と持続可能な開発 (SDG s) ー人手不足から人材不足にならない時代になるにはー
3年生	恵良優菜 奥 愛弥 國廣太一 ◎清村光希 寺迫有咲	セブンパーク天美と SDG s ー環境配慮の取り組みー
4年生	合田修人	パナソニックの経営戦略と課題
4年生	井上寛太	日本林業が抱える問題と自伐型林業への取り組み
4年生	野村優真	日本におけるジェンダー不平等の現状と課題
4年生	小石原由香	海外留学が私たちに与えるものとは
3年生	湯浅乃莉華 HUANG KAIMING 村上更紗 改發 諒 ◎川上紘輝	私たちの住む町ーセブンパークに愛をこめて

* 3年生の◎は グループの当日の発表者



私が最近食べたものについて！

村上更紗



今回は「学生」がテーマですが、何について書こうかなと考えたところ、コロナも少し落ち着き、**外食する機会**が増えました^^ その中で最近食べたものについて皆さんに見てもらおうと思います！

① 裏天王寺にある 「神戸餃子 オレギョ」

ここのおすすめは紫蘇入り餃子！しその香りがとても風味がありました^^ 写真のものは一皿二人前で¥780円でした！他にもきのこバター餃子や塩だれキュウリなどもあって多種多様なメニューでした^^

しかし、ライスがなかったのが残念でした「汗」



② 裏難波にある 「ホルモン坂上」

ここは友達の紹介で行きました。普段は予約しないと入れないほどの人気店！コースを注文しましたホルモンだけでなくの10種類の焼肉もありどれも最高でした★。
べそばは太麺でもちもちでした。¥4000円でライスは無料なので是非行ってほしいです



これが
べそば

③ 最後は「生活協同組合」による学食です

とても美味しく何より安い！対面授業が増え、お昼のランチで食べました。健康的なメニューが食べれました^^

美味しいものをたくさん食べている学生生活でした！以上です。



石井ゼミ・キャリアゼミ活動の実際と成果

新型コロナ禍にあっても、石井ゼミでは、キャリアゼミ活動として、実に多くの課題に取り組んできました。毎年、3年生の後期授業終了時以降本格化する「就活」に円滑に取り組むことができるように、下記の課題を重点的に学習してきました。

1. 就活に関連する準備作業 –

- 将来の仕事へのイメージや「就職の軸」を考えさせる課題
- ES（エントリーシート）の作成のための対策
- SPI（就職能力筆記試験）問題への解法の学習と対策
- 国内フィールドワークなどの課外活動
- ゼミ用のホームページの製作とコンテンツ（記事原稿）作成

2. 連携企業（株）オフィス AI によるワークショップと個人的セッション – 就活での悩みや葛藤などの問題への心のケア –（阪南大学

OB・國方凱統氏）

- 就活には個人的事情により悩みや葛藤、不安や心配事がつきものである。そうした問題群の根源にまで遡って、【自分らしく、なりたい自分】【本当にやりたい仕事を形にする】ことをナビゲートするワークショップや個人的セッションを開催した。就活に関するアンケート調査の実施

3. 阪南大学 OB の矢下幸司氏（阪南大学 OB）を招聘しての授業（講演）の開催

現在、都市文化観光研究機構代表 経営管理学修士（MBA）立教大学

「普通の生活」と「ちゃんとした」仕事考—その5 その5

—日本社会に吹く新しい風に期待を込めて—

●中流層総崩れの中での若者の貧困化現象

2020年度のサラリーマン（給与所得者）の平均給与は433万円と、平成から令和にかかえて、ほとんど伸び悩んでいる。ここ20年ばかり日本の人口の約50%を占める民間企業に勤めている、いわゆるサラリーマンの給料は、基本上昇していないといってよい。（民間給与実態統計調査より）。男女別平均でみると、男性532万円、女性293万円と女性の給与の極端な低さが際立っている。また、正規・非正規別の平均給与で見ると、正規496万円、非正規176万円となって、一段と貧困化の度合いが大きくなる。給与階層別みると、なんと400万円以下層が34.4%と、全体の3分の1を占めている。女性だけピックアップすると、200万円以下層が全体の4分の1強を占めている。さらに非正規のみに焦点を絞れば、この割合は一挙に上昇し貧困の度合いはいっそう深刻化する。非正規で女性は、日本の貧困化の象徴的存在として、中流層の崩壊と密接につながる図式を作り上げているといっても過言ではない。ここ30年間の非正規の急増が、意図的に中流層を崩壊に導いたことは間違いない。かつての600万円～800万円層の中流の中核的存在であった人たちの割合は、いまや見る影もなく、非正規労働の急増を背景に、それに取って代わられ、なし崩し的に崩壊してしまっている。また、全体の平均給与433万円について、年齢別にみると、20歳～30歳代の平均給与は極端に低くなり、200万円代層が圧倒的の大部分を占めていることから、貯蓄できないのは当たり前である。そして、若い年齢層での非正規雇用の割合は極めて大きいので、生存ギリギリの生活水準といってよいであろう。将来、中流層の展望が見えない中では、かつてのように若い時貧困でも、頑張れば、努力すれば明るい光を見ることができるのであれば、たしかに救いはある。将来の「救済なき」勤労は、ただの日々の金稼ぎのための「消耗労働」にしかすぎない、と思わざるを得ない現実。多くの若者がおかれている状況は、どうもがいても打ち破れない閉塞空間で息を潜めている日常感覚かもしれない。

●家族総出でしか成立しない「ちゃんとした」「普通」の生活

平成を迎えて以降、給与はほとんど頭打ちの状態という意味では、2020年度の433万円の年収がここ30年間の「標準」年収とほぼ考えてよいであろう。この433万円には税金や社会保険料などを控除すれば、手取り収入はもっと低くなる。いま、住民税や所得税だけの控除だけをみても、約100万程度年収が下がり、個人の事情によって異なるものの、月々の収入は27万円程度となる。これが、実際に使えるお金である。さらに、ここから各種の社会保険料が差し引かれるので、さらに可処分所得は低くなる。これが、現在の日本の現実であり、経済面でとらえた「ちゃんとした生活」＝普通の生活実態である。

月収 27 万円（実際はこれより低い）では、独り身ならともかく、家族のある人の収入としては、これではとても生活できない水準であるといつてよい。家族構成にもよりけりであるが、「標準世帯」（子供のいる家族）を想定すれば、この月収だけでは到底やっていけない。少なくとも、あと 5～6 万円程度は必要となるのが普通である。

日本の現在の平均収入からみた「標準年収」では、結婚して子供を養っていくだけの生活基盤を築くことは極めて困難であることが理解できる。ギリギリできたとしても、それは「健康にして文化的な生活」を送るには、たしかに無理がある。家族の生活を維持しようと思うなら、かつてのように男性の世帯主 1 人の給与収入だけでは成り立たないので、夫婦共働きが不可欠となる。これは、あくまでも 433 万円を基準にしているので、優良な大企業に勤務している 40 歳～50 歳の稼ぎ手がいる場合には、当てはまらないかもしれない。こういう人たちの生活が、かつては「普通」であり「ちゃんとした」生活であったとすれば、現在では、その基準が変わり、「標準」の水準が相当レベルダウンし、「標準」のハードルは大幅に下がっている。かつてのように、その低いハードルを飛び越えて、より高い年収のハードルにチャレンジすることさえできない状況である。低いハードルを飛び越えることさえ、ままならない日本の状況である。しかも、その低い標準的なハードルさえ、飛び越えるような水準に達しても、ごく普通に家族の生活ができない状態なのである。お父ちゃんだけでなく、お母ちゃんはもちろん、就職した子供たちも総出で、はじめて家族の生活がやっと維持できるというのが、いまの「普通」や「ちゃんとした」という形容詞の意味になっている。

●若者にとって過酷すぎる冒険—親御さんたちの要求

現在の大学生の親御さんたちのイメージする「普通」の「ちゃんとした」生活のイメージは、そのまた両親（祖父母）から引き継がれている面が強い。自分たちは、その祖父母の世代のもとで育ってきたから、そのイメージを我が子供たちに投影させる惰性が働く。そう思うしか、子供たちの将来性や未来を考える想像力が働かないほど、現実から遊離した思考に陥りやすい。逆に現実の厳しさを身に染みて感じているからこそ、子供達には少なくとも、高度成長期の影を引きずった自分たちの生活を踏襲して欲しい！という願いがより強くなるのかもしれない。もしそうであれば、大学生の親御さんたちのイメージする、「ちゃんとした」仕事や「普通の生活」とは、実直にいつて、いわゆる優良な大企業の社員として勤務することを前提としているとみてよい。たとえば、現在企業規模別にみて、広く大企業（資本金 10 億円以上）に務める男性労働者は約 3000 万のうち 600 万人存在している。そのうち最も大きな割合を占める所得階層は 700～800 万円層である。これは年齢的にみて中年どころの人たちの所得であり、人によっては 900 万円、1000 万円を超えている。この 700～800 万円層を「標準」とした大企業男性勤務者の割合は、総男性勤務者の約 2 割のうち、さらにその約 25% となり、おおよばに算出すると、全体（男性勤務者）の 5% にしか過ぎない。40～50 歳の将来を見据えて、この 5% の層を目標に頑張ること自体、冒険以外の何物でもない。親御さんたちの要求は、過酷すぎる冒険なのである！

（石井雄二）